令和７年度羽田中学校だより

天 空 の 橋

令和８年１月２６日

目指す生徒像･･･
Heart
Never Give Up
Do Our Best

大田区立羽田中学校

君は「大谷翔平」になれるか

校長　小川幸男

皆さん、明けましておめでとうございます。3 学期の始業式ということで、ふつうは抱負とか目標を持ちましょうという話をするのだと思いますが、今日は、その先のちょっと深い話をしたいと思います。タイトルは「君は大谷翔平になれるか」としました。

大谷翔平ということで、まず、大谷さんが高校 1 年生 16 歳のときに書いた有名なマンダラチャートというものを紹介します。

マンダラチャートでは、まず中央に最終的な目標を書きます。

高校 1 年生の大谷さんは、最終的な目標として「ドラ１　８球団」と書きました。８球団からドラフト 1 位で指名されるという目標です。そして、マンダラチャートでは、その最終目標を達成するために必要なことをその周囲に８つ書きます。大谷さんは「体づくり」「コントロール」「キレ」「スピード 160 キロ」などを書いています。さらに、その 8 つを達成するために必要なことを、それぞれについて 8 つ書きます。例えば、スピード 160 ㎞ならば、図のような感じです。

大谷さんの偉いところは、ドラフトで指名されるために人間性を高めるところまで目標としているところです。そのために、礼儀であったり、感謝であったり、信頼される人間になることなども意識しています。運動ができるだけでは、結局ダメだ。伸びないと思っているわけです。

さて、もう一つ目標について書いたものを見てもらいます。

それは、21 歳の特殊詐欺の受け子が書いたものです。彼は、生活ができなくなって特殊詐欺に加担してしまったのですが、それがバレて、捕まったとき、リュックの中から目標・夢を書いた紙が出てきたのです。

彼が書いた紙を見ると、ちょっと悲しくなります。自分の現実が見えていないから

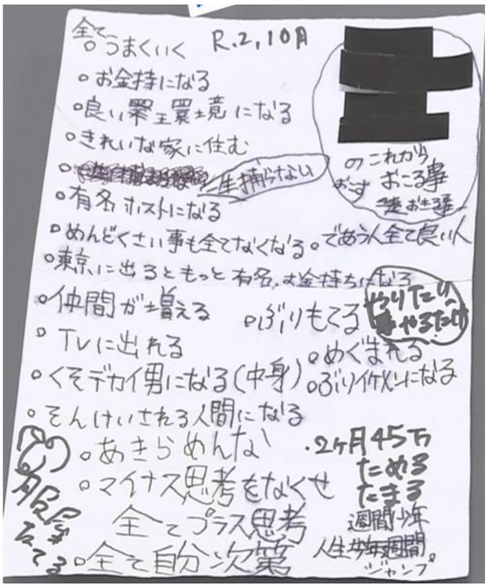
です。

「一生捕まらない」⇒実際には捕まっています。

「人生週間（週刊の誤り）少年ジャンプ」⇒少年ジャンプの三大原則である「友情・努力・勝利」を頭に浮かべ、マンガの主人公のように色々あっても最後には勝利することを夢見ているのでしょうか。

「全てうまくいく」「出会う人全て良い人」⇒これは、目標というよりも現実感のない願望だといっていいでしょう。

「尊敬される人間になる」⇒特殊詐欺をやって、尊敬は無理です。



もう一度、大谷さんの目標と、並べて比較してみましょう。

大谷翔平の思考

夢
- ➢ 目標（夢）分析
  - 夢の達成のためには何が必要か
- ➢ 目標の細分化
- ➢ 現状分析（方法を探る）
  - 何が足りないのか
  - 何をすればよいのか
- ➢ 実行

具体的（現実的）目標

➡ **夢の実現**

特殊詐欺受け子（21）の思考

夢（現実的でない願望）
- 分析がない
- 方法がない
- 実行しない

➡ **生活できなくなり特殊詐欺**

Why？
- ・能力がない　・面倒くさい
- ・思考方法を教えられていない
- ・考える生活の余裕がない
- ・適切な保護管理指導がない

＆ 怖いからの悪循環

16 歳の大谷さんの思考は、夢を具体的で現実的な目標とするために目標を分析して、達成のためには何が必要かを考えています。さらに、自分の現実を見つめ分析して「自分に何が足りないか」ということを考え、「何をすればよいのか」、つまり「具体的な方法」に落とし込み、実際に実行しています。

そのことにより、本当に夢・目標を実現しているわけです。

それに対して、21 歳の特殊詐欺・受け子の思考は現実感のない願望だけをもち、生活をよくするためにどうすればよいかの分析もなく、ゆえに方法を考えることもなく、実際によくするための行動もしない、という状態です。これでは、よりよい生活になることは無理でしょう。実際、生活ができなくなって、特殊詐欺に加担してしまっているわけです。

では、受け子の子は、なぜそのような思考になってしまうのでしょうか。いろいろ考えられます。

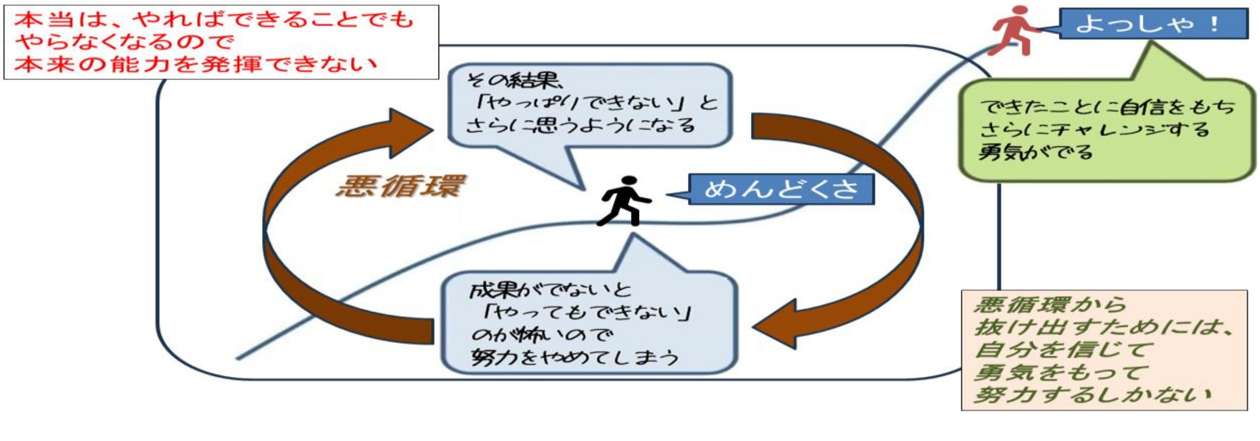
「能力がない」⇒ そうなのかもしれませんが、そう言い切ってしまうのはかわいそうです。能力が身に付かない背景があるかもしれないからです。背景を考えずに能力がないと言ってしまうのは、ちょっと差別的です。

「面倒くさい」⇒そうなのかもしれませんが、どうしてそう思ってしまうかはやはり気になります。

もしかしたら「方法を教えられていない」だけなのかもしれません。マンダラチャートとかを紹介され、それを書くという指導があっただけで、自動的に必要なことを分析し、その方法まで考えるようになるはずです。勉強で言えば、ただ強制されて勉強するのではなく、勉強のやり方まで知らないとできるようにはなりません。それは先生なり親なりに教えてもらう方が当然いいわけです。あるいは、考える生活の余裕がないのかもしれません。本当に生活が苦しいと、考える余裕がなく、能力も育ちません。あるいは、適切な保護・管理・指導がなかったことも考えられます。「頑張ったときにほめる」「辛いときは励ます」「ときには厳しく言うべきことを言い管理する」「支援のために必要な教育を受けさせる」など、大人がきちんと関わってあげられなかったのかもしれません。

このように、本人のせいだけとは言えないいろいろな背景が考えられます。

しかし、何十年も中学生をみてきた私はもう一つ大事な要因があると思っています。それは「怖いからの悪循環」です。どういうことでしょうか。

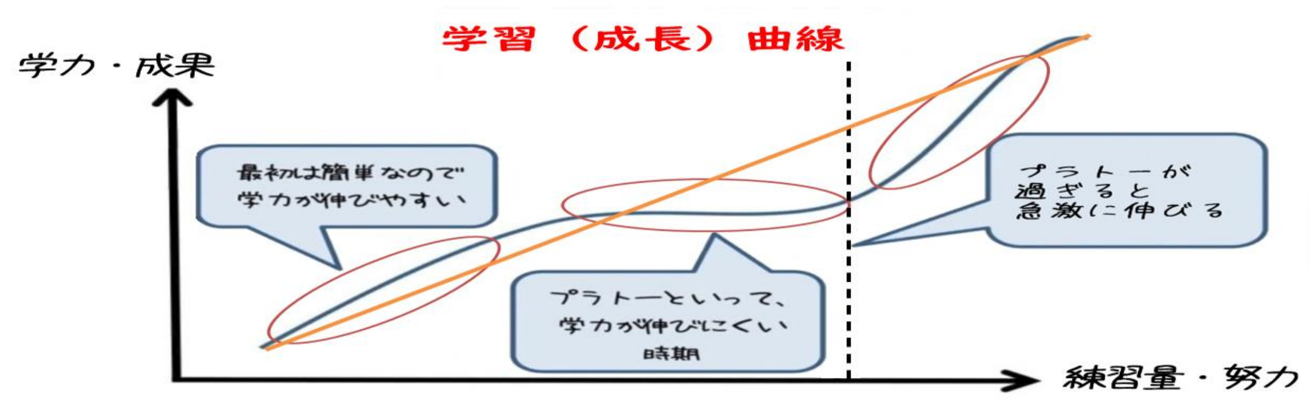


まず、怖いについてです。昨年末（12 月）に、この怖いについてよく表しているものを見ました。正直、胸に突き刺さりました。それは、M１決勝のドンデコルテの漫才・デジタルデトックスです。

「デジタルデトックス」は現実を見つめることが怖いことを面白おかしく表現した漫才です。同じように「自分の状況を見つめるのが怖いため、挑戦・努力ができない」ことが中学生にもよく見られるのです。皆さんの中にもいるのではないでしょうか。特に勉強では「怖い」からできない人が多くいるように思います。

この場合の怖いは「自信がない」ということと、ほぼイコールです。なぜなら、「怖い」のは「不安」だから。その不安は「自信がないことから生じるもの」だからです。

では、「悪循環」とはどういうことでしょうか。それを説明するために、学習曲線というものを紹介します。勉強でも、スポーツでも、料理でも、何かを身につけようと学習したとき練習量や努力の結果、どのように成果がでるかを表したのが学習曲線です。ふつうに考えれば、練習・努力をすればするほど直線的に成果がでると考えがちです。横軸の練習量・努力が多くなれば、そのまま縦軸の学力・成果が上がっていく状態です。しかし、実際には成果はまっすぐ上がらず、曲線になることがわかっています。勉強でいえば、まず最初は簡単なので学力は伸びやすいです。しかし、しばらく経つと「プラトー」といって努力しても伸びない時期が来ます。そして、プラトーが過ぎると、急激に伸びるのです。



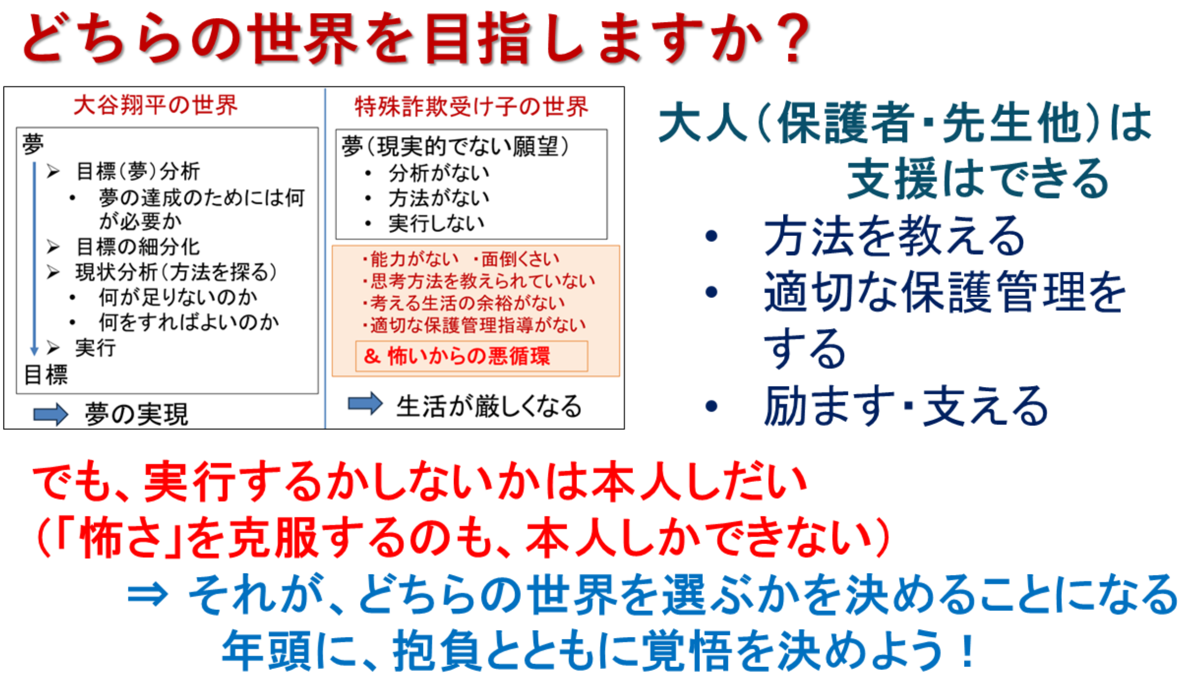
たとえば、九九でいえば「１０００回繰り返すと完全に身につく」とします。ところが、最初のうちは練習をすると順調にできるようになるのですが、４００～７００回くらいのときに、どこかで（多くは７の段とか８の段、６の段で）ひっかかっていくらやっても、なかなかそれ以上覚えられない状態になります。しかし、ここでやめてしまうと、完全に覚えられないどころか覚えたはずのことも、時間が経つと忘れてしまいます。

ここで「やればできると信じている人」と、「怖い、自信がない」と思っている人がどのように挑戦・学習するかを比べてみます。

まずは、「やればできると信じている人」です。そういった人はプラトーになっても、努力・練習をし続けます。そして、最後までやりきって九九などの挑戦した内容を身につけていきます。

次は、「怖い、自信がない」と思っている人です。そういった人はプラトーになり、努力をしてもなかなか成果がでないと、「やってもできない」のが怖いので努力をやめてしまいます。

そして、努力をやめてしまった結果、「やっぱりできない」とさらに思うようになり、次のときにはさらに挑戦を避けるようになるのです。これが悪循環です。この悪循環の結果、本当はやればできることも、やらなくなるので、本来の能力を発揮できなくなります。逆に、最後までやりとげた人は、できたことに自信をもちさらにチャレンジする勇気がでるようになります。では、この悪循環から抜け出すにはどうしたらよいでしょうか。悪循環から抜け出すためには、自分を信じて勇気を

もって努力するしかありません。
　さて、あなたは、「大谷翔平の世界」と「特殊詐欺・受け子の世界」のどちらを目指しますか。もちろん、誰もが大谷になれるわけではありません。誰もが、特殊詐欺の受け子になるわけでもありません。「自分の夢に近づく世界」か「夢から遠ざかり落ちていく世界」かの違いです。大人は支援をすることはできます。「方法を教えたり」「適切な保護・管理・指導をしたり」「励ましたり、支えたりする」ことです。しかし、実際に実行するかしないかは本人しだいです。怖さを克服するのも本人にしかできません。そして、それがどちらの世界を選ぶかを決めることになります。怖さを克服するのは実際はなかなか難しいものです。でも、今説明したように「実はできるようになる前にやめてしまっている」ことを知っていれば少しは、克服する勇気がでるのではないでしょうか。

　年の初め、年頭に、抱負とともに、怖さに立ち向かう覚悟を決めましょう。
　３年生の皆さん、あと１～２ヶ月頑張ってください。